

教師の腕前診断

今回のテーマ

「やってみせ、させてみせ、 代行する 忘れ物指導」

1 上履きの置き忘れ

週末の金曜日には上履きを持ち帰り、洗うように指導しています。放課後の下駄箱をのぞくと、何足かの上履きが残っています。さあ、そんなときは、どうしますか。

Q1 上履きの置き忘れを見つけたら、どうしますか？

- ① 下駄箱にいられたまま
- ② 電話をかけて取りに来させる
- ③ 自宅に届ける
- ④ 教師が洗う



まずは「①」です。見て見ぬふりではありませんが、そのままにしておきます。放課後に取りに来たら気づいたことを褒めますが、大方の子は取りに来ません。翌週の月曜日に言います。「上履きを持ち帰った人が35人でした」「えっ、2人忘れたんだ」教師は持ち帰った子を認める発言をしますが、子どもたちは持ち帰らなかった人数に反応します。「そうですね。残念ながら忘れた人もいました。これから週

末に持ち帰らなかった上履きは、先生が洗います」子どもたちは教師が本気で言っているとは思いません。「じゃあ、忘れようかな」と軽口を叩く子たちの前に、靴洗い用のタワシと洗剤をぽんと置きます。子どもの目が点になり、教室が静まりかえります。どうやら教師が本気で言っていることを察したようです。置き忘れた子の上履きをいきなり洗ってもいいのですが、ものには順序があるので、まずは予告します。

2 2回目の置き忘れ

今週は子どもを下駄箱まで引率しました。上履き袋に靴を入れたことを確認して下校させたつもりですが、それでも何足かの上履きが残っています。さあ、そんなときは、どうしますか。

Q2 2週続けて、上履きの置き忘れを見つけたら、どうしますか？

- ① 下駄箱にいられたまま
- ② 電話をかけて取りに来させる
- ③ 自宅に届ける
- ④ 教師が洗う

「④」がいいでしょう。

下駄箱から上履きを持って来て、教室の前の水道を使って洗い始めます。すると、部活の途中で教室に戻ってきた子が話しかけてきます。「先生は優しいね」「じゃあ、君の上履きも洗ってあげようか」「いいです。自分で洗えます」洗い終えた上履きは、教室の窓側の棚に干します。下駄箱には、週明けに登校した子

が「上履きがなくなった」と心配しないように、「上履きは洗って、教室の窓際に干してあります」とメモを入れておきます。また、メモと一緒にスリッパも入れます。教室まで靴のまま歩いて怪我をしてはいけないからです。翌週、上履きを洗ってもらった子どもたちは恐縮して教師の前に来ます。「洗ってくれてありがとうございます」「きれいになっていいでしょう」教師が本当に上履きを洗うとは思ってもみなかったようです。

心ある保護者は、翌日の連絡帳に謝罪とお礼の言葉を書いてきます。保護者の頭に「上履き」という言葉がインプリントされ、週末には親子で気にするようになります。口で言うだけでなく、やって見せることによって変容するのは子どもも保護者も同じです。注意をするとうっとうしがられるだけなのでしようが、洗ってもらってはそれでもできず、恐縮しています。

校内や街中で保護者に会うと、「上履きを洗っていたら申し訳ございませんでした」と挨拶されることがあります。また、こういう噂は学区を駆け巡ります。自分のクラス以外の保護者から「先生が子どもの上履きを洗うのですか」と驚かれることもあります。新しく担任になった最初の懇談会で、保護者の方から「上履きを先生に洗わせることがないようになっています」とユニークな挨拶をもらったこともありました。保護者の方は、我が子を任せてもしっかりと躰をしてくれると思ってくれるようです。教師が上履きを洗うと、教育力のある家庭の子どもは翌週から上履きを持ち帰ります。しかも、きちんと洗ってきます。

3 まだ上履きを持ち帰らない子

教師が上履きを洗ってみせると、大方の子は上履きを持ち帰って洗うようになりませんが、それでも置き忘れる子がいます。さあ、そんなときは、どうしますか。

Q3

教師が上履きを洗っても、改善されないときは、どうしますか？

- ① 諦める
- ② 連絡帳で知らせる
- ③ 電話をかけて取りに来させる
- ④ 自宅に届ける

「②」がいいでしょう。

ものには順序があります。1回目は子どもの口から保護者に伝えるように言っています。が、何度も置き忘れる子は、保護者に教師が上履きを洗ってくれたことを伝えていないのでしよう。保護者は「知らない」のです。

そこで、今後の色々な状況に対応するために、教師が力を尽くしている現状を知らせ、善処を依頼する手紙を書きます。

「いつも学校の活動にご理解とご協力をありがとうございます。さで、今回お手紙を差し上げたのは上履きのことです。綺麗な靴という美観、衛生上のことを考えて週末には持ち帰って洗うように指導しています。〇〇君は2週連続で学校に置き忘れていたので、その都度私が洗っておきました。持ち帰らせる指導の至らなかつたことをお詫びするとともに、今週は持ち帰らせるように十分気をつけます」

持ち帰らせるのは教師の務めです。ですから、それを怠っていることを認めつつ家庭で

も関心を持ってもらいたいということをお願いします。

4 それでも持ち帰らない子

連絡帳でお願いしても持ち帰らない子がいます。さあ、そんなときは、どうしますか。

Q4

保護者に知らせても、まだ改善されないときは、どうしますか？

- ① 諦める
- ② 保護者に電話をする
- ③ 電話をかけて取りに来させる
- ④ 自宅に届ける
- ⑤ 教師が洗う
- ⑥ 学校で洗わせる

連絡帳で知らせても母が明かないので電話で直接お願いしようというのは、賢明な方法ではありません。

上履きを見ると家庭の教育力が見えてきます。このような保護者に「上履きを洗わせて下さい」と頼んでも「余計なお世話」とけんもほろろにされるばかりで、感情的なしこりを残してしまいます。こういう子どもは普段から忘れ物が多く、保護者は耳にタコができるほど教師から小言をもらっているはず。「またか」と思い、心を開いて教師の話聞くどころか、逆切れする可能性もあります。

こういうことを想定すると「⑥」がいいでしょう。何度も上履きを持ち帰らない子に共通しているのは親の愛情不足です。親子の正しい関わりができていないのです。きっと子どもは寂しい思いをしているのでしよう。保護者

に正しい愛情表現を期待しても逆効果になる可能性があります。

それならば、教師が保護者の代わりにすれぱいいのです。子どもに言います。「上履きを学校で洗おうか。そうすれば、家に持って帰らなくてすむし、持ち帰っても月曜日に家から持ってくることを忘れなくてすむよ。先生も一緒にやるから」

すると、子どもはあっさり承知します。教師が腕組みをして洗っている様子を見ていては、子どもは「やらされている」と感じます。そこで、片方の上履きを教師が洗ってやり、もう一方を子どもが洗います。一緒に洗うのです。こうすると、自然に会話が弾みます。普段聞けないようなことを話してくれます。「先生の方がきれいに洗っているだろう」と挑発すると、「よし、負けないぞ」と洗い直します。「先生きれいな靴になったね」そういつて窓際の棚に靴を一緒に干しに行きます。翌週の月曜日には「先生と洗ったんだ」と誇らしげに自慢します。

上履きを洗う習慣が身につくと、清潔な靴を履きたいと思うようになります。見栄えのする靴のよさを感じるようになります。

干してある上履きを見て咳く子がいます。「いいなあ。僕も学校で洗おうかな」

上履きを見ると家庭の教育力が見えてきます。そういう意味では忘れ物をする子は被害者ともいえます。

保護者ができないことを教師が代行できるのなら喜んでやります。そうすれば、心が満たされ、行動が変容するでしよう。行動が習慣を作り、習慣が品性を作ります。